

逆発想の醍醐味

数々あるアイデア発想法の中で、「逆発想」「組合せ発想」「新用途発想」の3つの発想方法が基本。アイデアに行き詰ったときは、この3方法の思考を重ねるうちに新発想に行き当たる。中でも、「目からウロコ」のように今まで思いもしなかったアイデア開眼に至るのは、「逆発想法」と言える。「押してダメなら引いてみる」のように、今までとは逆の考え方をするのである。位置の上と下を、あるいは表と裏を逆にする。機能を逆にする。性質を逆にする。ともかく逆に考えることによって、既成の枠に捉われないアイデアに至る。まさにアイデアの醍醐味と言えよう。

逆発想は既成概念の枠を破る

逆発想は意識して逆に考えなければ、アイデアが思い浮かばない。われわれの生活行動や思考パターンは、「今までそのようにしていたから、先例と同じようにする」というように、従来の枠の中に閉じこもりがちだ。先例や常識の枠組みを超える考え方をするからこそ、斬新なアイデアを工夫できる。

逆発想の開発で、「これぞアイデアの醍醐味！」と感じさせられたのは、「つぶれる水切りザル」(<http://www.sanyoprecision.co.jp/collabo/>)である。

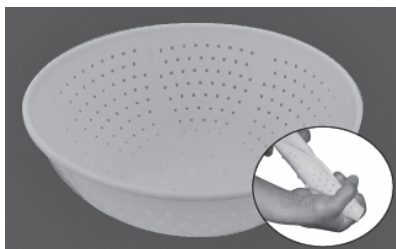


写真1
柔らかい水切りザル

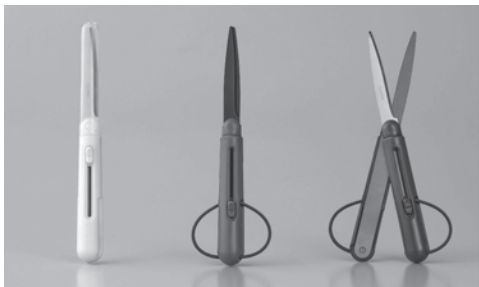


写真2 グリップが引っ込む「ペンカット」

水切りザルはどこの家庭の台所でも見るように、金網で頑丈につくられている。乱暴に扱っても壊れたり歪んだりしないようにするためだ。写真1は頑丈な金網を逆に考え、柔らかいシリコン樹脂でつくった真逆の発想である。

シリコン樹脂のザルだからフニャフニャと柔らかい。手でクシャッと丸めて折り畳めば、アウトドアのリュックに入れて携帯できる。ホウレン草のおひたしをつくる時は、ザルの中に茹でたホウレン草を入れて、水洗いをしながら上から絞る。今までのように水洗いしたホウレン草を布巾に包んで絞るという手間を省いて、おひたしがすぐにできる。主婦の発想を商品化したものだが、発想のユニークさが受けて、ヒット商品になった。

今話題になっているのは、(株)レイメイ藤井が商品化した写真2の「ペンカット」はさみ (<http://www.raymay.co.jp>)。

はさみのグリップは、指を入れて刃を広げたり切ったりする操作のために、必需の部分だ。しかしはさみの両側に大きく飛び出して、ペンケースに収納するときに邪魔になる。そこで外に飛び出ているグリップを、内部に引っ込ませようと考えた。握り柄のスライドによって、邪魔なグリップを握り柄の内側に収納可能にしたのだ。グリップ収納時は全体が棒状になって、ペンケースやかばんに入れて邪魔にならず、安全。一見「これがはさみ!？」とは思えないような意外性のデザインとスマートさが特徴で人気を呼んでいる。

ものごとを逆に考える逆発想法は、常に心しておきたいことである。